

応用問題 大阪会場試験問題の解答例

ウ、X+17年1月以降、A者との契約に基づいて亡Zのカウンセラーを務め、本人の病状と生活状況を把握していた者

A社より外部委託されたカウンセラーは、厚生労働省「事業場における労働者の心の健康づくりのための指針」4つのケアの事業所外産業保健スタッフに位置する。

カウンセリングは1回30分～50分の時間をかけておこなうので、体調面だけでなく心理面における重要な情報を捉えることが多い。そのため外部の専門機関としての個別支援だけでなく、必要に応じて事業所内産業保健スタッフと連携を図り、効果的なメンタルヘルス支援に務めることが求められる。

亡Zに対する支援として、休業開始からの生活リズム（食欲・睡眠等）や心理状態を確認しながら、メンタルヘルス教育等を実施。必要に応じ、本人同意を得て、主治医および家族と連携を取り、効果的な休養・回復への支援をおこなう。

休業から1ヶ月後の復職については、心理状態と体調回復度のアセスメントを実施。安定した復職につなげるために、本人同意を得て、事業所内産業保健スタッフと連携をとり、復職判定および復職後の業務調整に向けた第三者機関としての機能を務める。

復職後もフォローアップのカウンセリングを継続し、必要に応じた事業所および家族との連携を図りながら再発防止の支援をおこなう。

事業所に対する支援として、職場復帰後も上司等によるモニタリングを継続し、不調を察知した場合や本人からの申告があった場合は、産業医の受診を促し、心理面ではカウンセリングによる連携したサポート体制を構築。メンタルヘルスケア推進のため、職場環境の変化をとまなう事象（過重労働、異動、昇進、単身赴任、新入社員等）発生時のカウンセリングによるフォロー体制や、メンタルヘルスに関する教育研修（特にセルフケア・ラインケアの強化）を実施。メンタルヘルスの体制整備と強化への支援をおこなう。

事業所におけるメンタルヘルス体制および産業保健スタッフとの連携が図れていたとすれば、X+24年 本社営業部長に抜擢された以降、一連の事象および自殺は防げたと思われる。

以上